



## 新型コロナウイルス波到来か？

7月第1週から第4週の今治市内の新型コロナウイルスの1医療機関あたりの報告数は、3.4→6.3→15.1→14.3と着実に増加しており、第9波入りと考えてよさそうです。今後、夏休みで国内旅行や帰省など人の動きが活発になるため、さらに患者数が増えるのは間違いないでしょう。今回の9波はこれまでと何が違うのか考えてみます。

### ①感染者数の実態がわからなくなった。

5類移行により、コロナ陽性者の外出制限の法的根拠がなくなった。コロナの検査や治療が有料となり病院を受診しない人が増えた。そのためコロナ陽性者が市中に増えて、さらなる感染を広げていることが容易に想像できます。定点報告の年齢分布をみても、20歳以上の成人の割合が2割と少ないことも、このことを裏付けるものと考えます。

### ②小児ではインフルエンザが同時流行している。

7月中旬から学童のインフルエンザが急増しています。学童保育などで広がっているようですが、子どもが発熱した場合、コロナかインフルかは検査をしてみないとわからないのが現状です。

時代はウイズコロナのフェーズに入りました。これからは過去3年間のコロナの経験をもとに各自が状況に応じた感染対策をとることが大切になってきたのだと思います。

## 子どもの日焼け止め

子どもは皮膚が薄く皮脂も少ないので皮膚に炎症を起こしやすいため、外出時には日焼け止めを使うようにしましょう。子どもの日焼け止め選びのポイントは？

### ①子ども向けの日焼け止めを選ぶこと

### ②普段使いとアウトドア用の2種類を用意しておく

日焼け止めのパッケージの表示の「SPF」は、肌に赤く炎症を起こす「UV-B波」を防ぐ効果の指標、「PA」は、肌を黒くする「UV-A波」を防ぐ効果の指標となります。日常生活では「SPF10～30」「PA+～++」、アウトドアでは「SPF30～50+」「PA++～++++」を目安にするのが良いでしょう。



## 7月の感染症情報

ヘルパンギーナなどの夏風邪が流行の主体です。RSV感染症は下火になったものの、持続的な発生があります。新型コロナウイルスとA型インフルエンザが同時流行しています。インフルエンザは7月中旬から学童を中心に急増しており、学童保育や夏祭りなどで広がっているようです。新型コロナウイルスは感染経路不明も多いですがやはり家族内感染が目立ちます。



## 7月の利用状況

7月の利用延べ人数は111名、1日平均利用人数は5.6人でした。年齢別では1歳児が36人で最も多く、次いで2歳児の24人でした。疾患別では急性上気道炎が60人で最も多く、その大部分が夏風邪と考えられ、ヘルパンギーナの18人を合わせるといわゆる「夏風邪」による入室がほとんどを占めていました。入室児の年齢が1～2歳児に集中していることから、夏風邪がこの年齢に好発していることがわかります。そのほか、RSV感染症、インフルエンザなどの入室がありました。

連日猛暑日が続く、体力が消耗しやすい時期です。十分な睡眠と水分補給を心がけてください。